

## 平成26年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日時 平成27年3月3日(火) 午前10時～11時40分
- 2 会場 同志社新島会館 別館2階 会議室
- 3 出席者 評議委員：上原恵美，高久嶺之介，龍村光峯，田端泰子，野口実，藤瀬祥子，丸山宏，鈴木ちよ，山口正弘  
資料館：井上館長，影近次長 他
- 4 欠席者 評議委員：鈴木久男
- 5 傍聴者 1名

### 6 議事運営

#### (1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開とすることを説明。

#### (2) 開会あいさつ

#### (3) 出席委員・当館説明者紹介

#### (4) 平成26年度事業報告説明(資料2参照)

テーマ展又は特別展として「愛宕信仰と山麓の村」，「叢書京都の史料刊行記念 桂川西岸の村社会」，「蛤御門の変と「どんどん焼け」—あれから150年—」，「新・京のかたち6 都市計画の20世紀」を既に開催し，今年度末から「第四十二回式年遷宮記念 重要文化財 賀茂別雷神社の古文書」を開催すること，及びそれぞれの展示の概要，特徴等について報告。

また，展示に合わせた講座，大文字五山送り火前日の夏休み親子歴史教室，開館当初から毎年開催している古文書講座のほか，京都アスニー及びアスニー山科との協力講座を開催したことなどを報告。特に今年度は，区民や地元の方が参加しやすいように西京区役所・榎原公会堂で講座を開催し，歴史資料館の活動について理解を深めていただいたこと，また古文書講座を春と秋の2回開催し，入替制とすることでより多くの方が受講できるようにしたこと等を説明。

このほか，「京都市政史第3巻 財政のあゆみ 市政史年表」をまもなく刊行すること，市のベンチャー企業支援の取組の中で開発されたスマホアプリ「いしぶみ」へデータを提供したこと等を報告。

続いて，歴史資料館の利用及びホームページアクセスの状況について説明。

展示来館については，NHK大河ドラマによる波及効果のあった昨年度と比較して36%減少したが，平成24年度と同程度の来館者数が予想されること，資料閲覧と歴史相談は若干増加していること，ホームページへのアクセス数も増加していること等を説明。

#### (5) 質疑応答

[評議委員] テーマ展と特別展の違いは何か。

[資料館] 本を出版したり，他の団体との共催を行う場合などに特別展とし，それ以外は一定のテーマを取り上げたテーマ展としている。

[評議委員] 講座には受講資格を設けているか，また受講者を抽選する際，市内在住者を優先しているか。

[資料館] 夏休み親子歴史教室を除き，受講資格を設けていない。市内・市外の在住を問わず受講者を抽選している。

[評議委員] 博物館実習生の受け入れは，歴史学専攻の学生に限定しているのか。

- [資料館] 各大学が推薦する学生を受け入れているため、必ずしも歴史学専攻の学生に限っているわけではない。
- [評議委員] 榎原公会堂での歴史講座で事前申込が不要となっているのはなぜか。
- [資料館] 講座内容が榎原地区に関連が深いので、地元の会長にお願いし、関心のある方を募ることとしたため。
- [評議委員] その他の講座は、どのようにして受講者を募集しているのか。
- [資料館] 広報発表を行うとともに、ホームページ、チラシ、市民しんぶん等で広報している。
- [評議委員] 普段あまり歴史に関心を持っていないような人々に対して、どのように情報を伝えていくかが課題である。そうした人々も一度受講すれば、関心を持つことがある。
- [資料館] 昨年度の評議委員会議で委員の方々からは、地域に密着した取組を積極的に展開してほしいという御意見をいただいた。今年度は西京区役所や榎原公会堂で講座を開催したが、その後も地元の団体から依頼を受け、榎原本陣や寺院で講演を行ったりもしている。また多くの地元の方々に叢書を購入していただいた。
- [評議委員] 古文書講座を土日に設定してはどうか。サラリーマンや学生が平日の日中に受講するのは難しいし、中学生等の若い世代を育てていくためにも検討してもらいたい。
- [資料館] 状況を見ながら、平日昼間以外の開講について検討していきたい。
- [評議委員] 古文書講座は初級・中級のように受講者のレベルを分けているか。
- [資料館] 受講者には古文書を読める人と初心者が混在しているのが実情だが、明確に分けるのは難しいことから、初心者でも楽しく受講できるような内容とするため、初心者向けに文字の説明を丁寧に行うとともに、文書の内容や時代背景の解説等も行い、レベルの差異に関係なく、理解を深めてもらっている。

#### (6) 平成27年度事業計画説明（資料3参照）

特別展又はテーマ展として「第四十二回式年遷宮記念 重要文化財 賀茂別雷神社の古文書」、「京都市政史全巻刊行記念 古都・京都の復興」、「古地図のいろいろ—手書き地図の世界—」、「第三十四回式年遷宮記念 京・地域のくらし1 下鴨—賀茂御祖神社の神域—」、「叢書京都の史料刊行記念 内裏図の世界—京都御所と公家町—」を開催することを報告。また京都文化博物館を会場に、文化博物館と共催で特別展「実相院門跡—幽境の名刹—」を開催することを報告。

展示と関連する歴史講座を上賀茂神社や上京区役所等でも開催すること、「叢書 京都の史料」の第14回配本「内裏図集成 京都御所と公家町」を刊行すること、第15回配本「久多荘文書」の編集に向けた準備作業に着手すること、博物館実習生の受け入れ期間を従来より1日延長し、国の規定と整合性を持たせるようにすること、「紀要」はこれまでの隔年刊行を毎年刊行とすること等を報告。

#### (7) 質疑応答

- [評議委員] 市政史の編さんが終了するが、今後改めて市史を編さんする予定はないか。先の市史の編さんが終了してから長く経過しており、市史を改訂してもいい時期に来ている。また以前検討していた歴史博物館構想はその後どうなったのか。
- [資料館] 今のところ市史を改訂する予定はない。また歴史博物館構想の検討も活かしながら、考古資料館、文化財保護課、学校歴史博物館との連携を考えていく。
- [評議委員] 出版をめぐる状況が厳しく、出版に代わる情報発信の方法としてホームページがある。今後ホームページをどのように活用するつもりか。
- [資料館] ホームページは、いしぶみデータベースの利用が多いが、データベースに網羅できていない部分もあるため補充を進めることや、紙ベースで公開している写真帳の画像での公開なども検討していきたい。
- [評議委員] 展示図録はモノクロだが、これをカラーでホームページに掲載してはどうか。歴史資料館が頑張っていることを示すことができるし、ホームページアクセス、来館者の増にもつながる。刊行物に掲載している写真

なんかもホームページに挙げれば販売につながるかもしれない。

[評議委員] 埋蔵文化財研究所が現地説明会資料をPDFファイルでホームページに掲載している例もある。

[資料館] ホームページの充実を図ろうとすればサーバーの容量を増やしたりする必要があるが、掲載する情報を徐々に増やしながらか、その成果を踏まえて必要な予算要求もしていきたい。

[評議委員] 来年度に叢書を刊行することと合わせて、幕末の地図を見ながら公家町を歩く企画を行ってみてはどうか。京都御苑内であれば、安全確保やお手洗いの問題もなく、隣接する資料館の立地も活かすことができる。負担にならない程度に一度試みにやってみてはどうか。

[評議委員] 御苑では他の時代についても企画できるため、シリーズ化も可能。

[資料館] 御苑事務所から依頼があって単発で行ったことがある。御苑内なら交通事故に合わなくてよい。前向きに検討していきたい。

[評議委員] 他の施設と連携して歴史案内のボランティアを養成する仕組みを検討してはどうか。専門家だけでなく一般の参加者を広く取り込んでいく工夫が必要だ。

[資料館] 京都アスニーのボランティアガイド向けの講座には出講している。考えていきたい。

[評議委員] 観光業界のガイド、ライセンスを持って仕事で案内を行っている人たちとの住み分けなんかが気になる。勝手にやってもいいとは思いますが、交通整理をしておく必要があると思う。

[評議委員] 世界人権問題研究センターでは、講座の受講者がボランティアとして人権ゆかりの土地の解説を行っており、ボランティアを養成するノウハウがあるので、参考に聞いてみてはどうか。また、展示図録は『史料 京都の歴史』編さん終了後の歴史資料館での研究の深化を示すものであると思うので、20年、30年の節目に、研究の成果としてこれらを一つにまとめておけばいいのではないかと思う。

[評議委員] 自分が住む古門前や祇園の地域は、江戸時代以来の町並みがたくさん残っている。今回の都市計画に関する展示の図録を地元のまちづくり協議会の場で説明したところ、すごく関心を持ってもらえた。わかりやすくとても勉強になる資料と思う。また、地域の町家を見学する参加者を募集したところ、応募者が多かった。地域で歴史講座の開催を希望する声も多い。

[評議委員] 京都には歴史に関係する様々な団体がある。歴史資料館には、そういった団体、施設をつなぐ役割を果たしてほしい。

[評議委員] 歴史好きの中学生や高校生も多い。若い世代にも目を向けてやってほしい。

#### (8) 歴史資料館運営予算について（資料4参照）

歳出・歳入予算の概要を説明。歳出は、概ね一定の金額に、年度によって若干のプラスアルファがある状態。歳入は、刊行図書の販売、コピー利用や古文書講座受講料によるもので、図書販売価格の引き下げや古文書講座の定員増など、利用拡大と増収の取組を説明。

#### (9) 閉会あいさつ

本日頂戴した様々な分野からの貴重な御意見を極力生かす方向で、資料館としての行動を進めてまいりたい。今後ますます皆さまのお力添え、御指導、御鞭撻をよろしく願い申し上げます。